



## 【指導事例 1】

### 1 主 題 「困難や失敗を乗り越えて」〔希望と勇気、克己と強い意志〕

### 2 ねらい

目標に向かって、希望と勇気をもち、困難や失敗を乗り越えて着実にやり遂げようとする心情を育む。

### 3 教材について（教材の生かし方や人物像）

本教材は、幼少期の病気が原因で盲目となりながらも、困難を乗り越え点字図書館を開設した本間一夫の功績に触れることを通して、目標に向かって希望と勇気をもち、困難を乗り越えて着実にやり遂げようとする心情を育むことをねらいとしています。

前半では、盲学校在学中に「点字」と出会った本間一夫が、「点字図書館を開く」ことを決意し、25歳の若さで日本盲人図書館を設立した様子について触れています。

後半では、一般図書を点訳する奉仕者や全国からの寄付が増えたことにより順調に発展していた図書館が、戦争の影響で様々な困難に見舞われながらも、本間一夫が諦めず図書館の存続に向けて努力し、世間からその功績が称えられ、順調に発展するようになるまでの様子について触れています。

指導に当たっては、困難な状況の下でも最後までやり遂げた本間一夫の生き方について多面的・多角的に話し合い、希望と勇気をもち、困難や失敗を乗り越えて着実にやり遂げようとするということについて深く考えさせることが重要です。

### 4 展開例—①「困難に直面したときの一夫の気持ちや行動について話し合う活動を通して、努力の大切さについて考える展開」

	●学習活動 ○主な発問 ◎中心的な発問 ・予想される子どもの反応	・指導上の留意点（■評価）
導入	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 今まで自分が努力してきたことや、今努力していることについて考える。</li> <li>○ 自分が努力していること、努力していたことはありますか。               <ul style="list-style-type: none"> <li>・受験に向けての勉強</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ねらいとする道徳的価値への方向付けをする。</li> </ul>
展開	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 教材「すべての人に読書の喜びを」を読み、話し合う。</li> <li>○ 一夫は、どうして「自分の手で、日本に大きな点字図書館を開こう」と決意したのでしょうか。               <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分をもっと点字の本を読みたいから。</li> <li>・同じ境遇の人に読書の楽しさを伝えたかったから。</li> </ul> </li> <li>◎ なぜ、一夫は、財政的に苦しい状況でも、点字図書館を存続させようと考えたのだろうか。               <ul style="list-style-type: none"> <li>・有料にしても図書館を続け、同じような境遇の人に読書の楽しさを伝えたいと考えたから。</li> <li>・自分ならそこまでできないかもしれないが、支えてくれる人のためにもあきらめていけないと考えたから。</li> </ul> </li> </ul> <hr style="border-top: 1px dashed black;"/> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 人間としての生き方について考える。</li> <li>○ 今まで、自分の夢や目標の実現に向けて、どのように取り組んできましたか。               <ul style="list-style-type: none"> <li>・毎日、家庭学習を続ける目標を立てたが、ゲームの誘惑に勝てず、続けることができなかった。</li> <li>・部活動でレギュラーになれるように、休日に自主練習を続けている。</li> </ul> </li> <li>○ これから、自分の夢や目標の実現に向けて、どのように取り組んでいきたいですか。               <ul style="list-style-type: none"> <li>・他の誘惑に負けないように努力していく。</li> <li>・決めたことを最後までやり遂げたい。</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一夫が、25歳の若さで点字図書館を開くことを決意した時の気持ちを話し合い、人間理解を深めさせる。</li> <li>・一夫が、使命感をもち、自分なりの方法で困難を乗り越えようとしていることのよさについて、多面的・多角的に話し合い、価値理解・他者理解を深めさせる。</li> </ul> <hr style="border-top: 1px dashed black;"/> <ul style="list-style-type: none"> <li>・夢や目標について、自分の人間としての生き方を振り返り、自己理解を深めさせる。</li> <li>■ 困難や失敗があっても、目標に向かって、自分なりの方法でやり遂げることの大切さについて、自分との関わりで、考えを深めている。</li> </ul>
終末	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 教師の説話を聞く。</li> <li>※生徒にとって身近な偉人を取り上げ、努力の大切さについての話をする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒にとって身近な偉人を取り上げることにより、夢や目標に向かって自分なりの方法で取り組んでいこうとする心情が育まれるようにする。</li> </ul>

## 【指導事例 2】

### 1 主 題 「平等な社会の形成」〔社会参画、公共の精神〕

### 2 ねらい

社会参画への自覚を高め、公共の精神をもってよりよい社会を実現しようとする態度を育てる。

### 3 展開例—②「一夫が周囲のことを考え、発言や行動をしたことについて話し合う活動を通して、社会参画や公共の精神について考える展開」

### 4 主な学習活動

(1) 一夫は、どうして「自分の手で日本に大きな点字図書館を開こう」と決意したのでしょうか。

- ・自分がもっと点字の本を読みたかったから。
- ・同じ境遇の人に読書の楽しさを伝えたかったから。
- ・目が不自由な人でも、自分一人で読書ができるという魅力を伝えたかったから。

(2) 一夫は、どうして点訳者の紹介を載せたのでしょうか。

- ・利用者に点訳者への感謝の気持ちをもってほしかったから。
- ・読者がたくさんの人に支えられていることを知ってほしかったから。
- ・読者と点訳者を繋ぎたかったから。

(3) 「権利において、義務において、晴盲二つの世界があくまでも公平でなければならない」という言葉には、一夫のどのような思いが込められているのでしょうか。

- ・日本では、目が不自由な人が安心して暮らすことができない。
- ・誰もが平等な社会になってほしい。
- ・障がいの有無にかかわらず、みんなで支え合って生きていける社会になってほしい。

### 活用場面例（道徳科以外での活用事例）

#### ■ 社会科

公民的分野の社会保障の学習において、本教材を活用し、一夫の生き方に触れることを通して、年齢や障がいの有無に関わらず、社会の一員として平等に自立した生活を送れるようにすることの大切さについて理解を深めることができるようにする。

#### ■ 保健体育科

健康な生活と疾病の予防の学習において、本教材を活用し、一夫の生き方や点字図書館の活動に触れることを通して、誰もが健康で住みやすい社会を形成するために行われている活動について関心が高まるようにする。

#### ■ 総合的な学習の時間

職業や自己の将来に関する探究課題を設定した学習において、学習活動への動機付けを図るため、本教材を活用し、一夫が様々な困難を乗り越えて、点字図書館の発展に尽力した思いや願いについて考える活動を通して、自らの能力や適性を生かして自己の将来を切り拓いていこうとする意欲が高まるようにする。

#### ■ 家庭や地域との連携

学級通信等において、本教材を活用した学習の様子を家庭に伝えるとともに、生徒の夢や目標、その実現に向けた課題や解決の方法について話し合ってもらおうよう依頼し、生徒が自分なりの方法で夢や目標に向けて努力しようとする意欲を高めることができるようにする。